

都市部における民生委員・児童委員の活動継続意欲や相談相手の現状

Current status of willingness to continue activities and social networks of Local Welfare Commissioners in urban areas

飛田 和樹

大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科

HIDA Kazuki

Department of Human Welfare, Faculty of Human Relations, Otsuma Women's University

2-7-1 Karakida, Tama-shi, Tokyo, 206-8540 Japan

キーワード：民生委員・児童委員，活動継続意欲，相談相手とのつながり

Key words : Local Welfare Commissioners, Willingness continue activities, Social networks

抄録

本研究では，都市部における民生委員の活動継続意欲・援助成果・役割ストレスおよび相談相手とのつながりに関する現状を明らかにすることを目的とした。神奈川県横浜市において全民生委員4,452人を対象として，自記式無記名式の質問紙調査を実施した（2,959件回収，回収率66.5%）。主要な変数は，民生委員の活動に関する意識（重視していること，活動継続意欲・援助成果・役割ストレス）および相談相手とのつながり（相談相手の人数，交流頻度，相談する内容等）とした。相談相手とのつながりについてはネームジェネレータにより詳細に測定し，民生委員活動における相談相手の人数は，二者関係（ダイアド）単位で10,481のつながり（回答者個人（ケース）あたり平均3.54人）が把握された。

1. 目的

本研究では，都市部における民生委員・児童委員（以下，民生委員）の活動継続意欲・援助成果・役割ストレス^[1]，相談相手とのつながりに関する現状を明らかにすることを目的とした。本稿は，中間報告として結果の概要を報告するものである。

2. 方法

2.1. 調査方法

本研究では，日本最大規模の政令指定都市である横浜市18区において，全民生委員4,452人（2022年10月1日現員数）を対象として自記式無記名式の質問紙調査を実施した（2,959件回収，回収率66.5%）。調査票は各区各地区民児協会長から委員一人ひとりに配布し，回答者から研究者への郵送回収とした。調査期間は2022年10月上旬～2022年12月16日とした。

2.2. 主要な変数

本研究における主要な変数は，民生委員の活動

に関する意識（重視していること，活動継続意欲・援助成果・役割ストレス^[1]等）および相談相手とのつながり（相談相手の人数，交流頻度，相談する内容等）とした。

(1) 民生委員活動で重視していること

民生委員活動で重視していることは，「あなたが民生委員活動で重視していることをお伺いします」として，「個人に対する相談・支援活動や，訪問・連絡活動」（以下，個別支援），「地域における福祉活動・自主活動や，行事，事業，会議等への協力・参加」（以下，地域福祉活動），「地区民児協の参加・運営や民生委員同士の話し合い」（以下，民児協運営）の3項目について，それぞれ「とても重視している」，「重視している」，「どちらともいえない」，「重視していない」，「まったく重視していない」から1つを選択してもらった。

(2) 民生委員の活動継続意欲・援助成果・役割ストレス

本指標は杉原¹⁾による指標を用いた。民生委員の活動継続意欲¹⁾は、「民生委員活動全体に対するお考えについてお伺いします」として、「民生委員活動を今後も続けたいと思いますか」、「全体として民生委員活動どのくらい満足していますか」、「もし、あなたの友人が民生委員の仕事をしたと言ったら、あなたはその人に何と言いますか」という3項目について、それぞれ5件法（「続けたい～続けたくない」、「とても満足している～満足していない」、「強く勧める～止めるように助言する」）で回答を得て、各回答に5～1点を配して単純加算した。得点範囲は3～15で、得点が高いほど活動継続意欲が高い。

民生委員活動における援助成果¹⁾は、「民生委員活動をしていて、次のようなことにどの程度あてはまりますか?」として、「人や地域に貢献しようという気持ちが芽生えた」、「活動そのものが楽しめた」、「『もっと～したい』など自分自身を高める目標が生まれた」、「日常生活の中で人との対応が好ましい方向に変わった」、「仲の良い友達ができた」、「気持ちの充足感が生まれた」、「自分にできることで社会と関わり人の役に立つことができた」、「新しい出会いがあり、人間関係の輪が広がった」、「やりがい生まれた」、「対象者の幸福・安寧のための新たな目標ができた」、「対象者や関係者から様々なことを教えられ勉強になっている」という11項目である。本研究では、事前の民生委員や専門機関に対するヒアリングから、「外出する機会、講座などの学習機会、地域の行事や活動に参加する機会が増えた」の1項目を追加して、全12項目についてそれぞれ「とてもあてはまる～まったくあてはまらない」の5件法で回答を得て、各回答に5～1点を配して単純加算した。得点範囲は12～60で、得点が高いほど援助成果が高い。

民生委員活動における役割ストレス¹⁾は、「民生委員活動をしていて、次のようなことについてどうおられますか?」として、「自分の責任の範囲がはっきりしていない」、「自分に何が期待されているのかわからない」、「要援護者に対して何をすればよいかわからない」、「どこまで支援すればよいのか判断に迷うことがある」、「民生委員の間で取り組み姿勢に違いがあつてやりにくい」、「ある人からは良いとされたことが他の人からは良くないと言われることがある」、「十分な情報や援助がないのに仕事を割り当てられることがある」、「意

味がないと思われる仕事を行政から割り当てられることがある」、「相談件数や見守りを必要とする世帯が多い」、「行政や関係機関からの依頼事項が多い」、「会議や研修が多い」、「知識の習得や情報の整理が追いつかない」という12項目について、それぞれ「とてもそう思う～まったくそう思わない」の5件法で回答を得て、各回答に5～1点を配して単純加算した。得点範囲は12～60で、得点が高いほど役割ストレスが高い。なお、順に4項目ずつ、役割曖昧（民生委員としての役割に関する曖昧さ）、役割葛藤（民生委員としての役割を全うするうえでの葛藤）、役割過重（民生委員としての担当世帯数や必要な会議、情報収集の煩雑さ）という区分になる。

(3) 相談相手とのつながり

相談相手とのつながりは、ネームジェネレータにより「あなたが『民生委員活動について相談する人』を具体的に思い浮かべてください。その相談相手ひとりひとりについて、お伺いします」として、相談相手の人数（最大8名）や属性、交流頻度を測定した。この測定は社会的ネットワークを把握する手法のなかでも詳細な測定が可能であるとされ、「回答者個人単位（ケース単位）」と「二者関係単位（ダイアド単位）」による分析が可能となるため、本研究で採用した。

相談相手の属性は、「家族」、「友人」、「民生委員」、「区役所」、「地域ケアプラザ（コーディネーター）」^[註1]、「地域包括支援センター」、「区社会福祉協議会」、「ほか（自由記述）」から1つを選択してもらった。相談相手と会う頻度および電話・メールの頻度は、相談相手ひとりひとりについて「週4回以上」、「週に2,3回」、「週1回」、「月2,3回」、「月1回」、「年数回」から1つを選択してもらった。得られた回答はその区分のまま分析するほか、1か月を年平均4.3週と換算して、「週4回以上」=21.5、「週2,3回」=10.75、「週1回」=4.3、「月2,3回」=2.15、「月1回」=1、「年数回」=0.3とした。民生委員活動において相談相手に相談する内容は、相談相手ひとりひとりについて「個人への支援」、「地域での活動」、「民児協の運営」、「ほか（自由記述）」から複数回答とした。相談相手に相談した時の相手の対応は、「話を聞いてくれる」、「行動してくれる」、「必要な情報をくれる」、「活動を認めてくれる」の4項目から複数回答とした。

2.3. 分析方法

統計解析には IBM SPSS Statistics Ver.28 を使用し、記述統計を確認した。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本福祉大学大学院「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会による承認を得た（承認番号 22-015）。調査協力は任意であること、回答しないことおよびいかなる回答内容でも不利益が生じないこと、回答内容はデータ化・匿名化され個人が特定されないこと等を調査票に明記し、回答の返送をもって同意が得られたものとした。

4. 結果

4.1. 回答者の属性【表 1】

回答者の性別は、男性 585 人 (19.8%)、女性 2,322 人 (78.5%) であった。年齢は、70～74 歳が最も多く 970 人 (32.8%)、次いで 65～69 歳が 621 人 (21.0%) であった。40 代以下は 84 人 (2.8%) であった。就労状況は、就労している者が 1,276 人 (43.1%)、就労していない者が 1,209 人 (40.9%) であった。全回答者のうち、民生委員が 2,610 人 (88.2%)、主任児童委員が 308 人 (10.4%) であった。地区民児協における役職は、会長が 220 人 (7.4%)、副会長が 190 人 (6.4%) であった。民生委員委嘱年数は、1 期 (3 年未満) が最も多く 923 人 (31.2%)、次いで 2 期が 660 人 (22.3%)、5 期以上 (13 年以上) が 531 人 (17.9%) であった。ひと月あたりの活動日数は、10～14 日が最も多く 864 人 (29.2%)、次いで 5～9 日が 773 人 (26.1%)、15～19 日が 626 人 (21.2%) であった。

4.2. 民生委員活動で重視していること【表 2】

個別支援については、「重視している」が最も多く 1,846 人 (63.4%)、次いで「とても重視している」が 664 人 (22.8%)、「どちらともいえない」が 363 人 (12.5%) であった。

地域福祉活動については、「重視している」が最も多く 1,912 人 (65.7%)、次いで「どちらともいえない」が 480 人 (16.5%)、「とても重視している」が 459 人 (15.8%) であった。

民児協運営については、「重視している」が最も多く 1,841 人 (63.2%)、次いで「とても重視している」が 606 人 (20.8%)、「どちらともいえない」が 415 人 (14.2%) であった。

表 1. 回答者の属性 (n=2,959)

	n	(%)
性別		
男性	585	(19.8)
女性	2,322	(78.5)
回答しない	12	(0.4)
無回答	40	(1.4)
年齢		
75 歳以上	350	(11.8)
70～74 歳	970	(32.8)
65～69 歳	621	(21.0)
60～64 歳	421	(14.2)
50～59 歳	451	(15.2)
40～49 歳	81	(2.7)
39 歳以下	3	(0.1)
無回答	62	(2.1)
就労状況		
就労している	1,276	(43.1)
就労していない	1,209	(40.9)
無回答	474	(16.0)
民生委員、主任児童委員の別		
民生委員	2,610	(88.2)
主任児童委員	308	(10.4)
無回答	41	(1.4)
地区民児協における役職		
会長	220	(7.4)
副会長	190	(6.4)
委員	2,483	(83.9)
無回答	66	(2.2)
委嘱年数		
1 期 (3 年未満)	923	(31.2)
2 期 (3 年以上 6 年未満)	660	(22.3)
3 期 (6 年以上 9 年未満)	460	(15.5)
4 期 (9 年以上 12 年未満)	310	(10.5)
5 期以上 (13 年以上)	531	(17.9)
無回答	75	(2.5)
活動日数/月		
25 日以上	83	(2.8)
20～24 日	296	(10.0)
15～19 日	626	(21.2)
10～14 日	864	(29.2)
5～9 日	773	(26.1)
4 日以下	247	(8.3)
無回答	70	(2.4)

表 2. 民生委員活動で重視していること (n=2,959)

	民生委員活動で重視していること					
	個別支援		地域福祉活動		民児協運営	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
とても重視している	664	(22.4)	459	(15.5)	606	(20.5)
重視している	1,846	(62.4)	1,912	(64.6)	1,841	(62.2)
どちらともいえない	363	(12.3)	480	(16.2)	415	(14.0)
重視していない	35	(1.2)	52	(1.8)	41	(1.4)
まったく重視していない	3	(0.1)	9	(0.3)	10	(0.3)
無回答	48	(1.6)	47	(1.6)	46	(1.6)
合計	2,959	100.0	2,959	(100.0)	2,959	(100.0)

表 3. 民生委員の活動継続意欲・援助成果・役割ストレスの得点 (区別) (n=2,959)

	活動継続意欲 (n=2,876)		援助成果 (n=2,877)		役割ストレス (n=2,866)	
	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)
A 区	9.68	(2.2)	42.58	(7.3)	33.46	(7.2)
B 区	9.94	(2.5)	44.48	(7.5)	34.96	(7.3)
C 区	9.84	(2.2)	44.53	(5.8)	34.10	(6.7)
D 区	9.84	(2.2)	43.66	(6.9)	34.45	(7.1)
E 区	10.08	(2.3)	43.54	(6.9)	34.54	(7.0)
F 区	10.34	(2.0)	45.38	(5.8)	33.94	(7.2)
G 区	9.71	(2.6)	44.58	(6.2)	35.40	(6.9)
H 区	9.88	(2.2)	44.33	(7.0)	34.65	(7.9)
I 区	9.94	(2.5)	44.63	(6.2)	34.98	(7.3)
J 区	10.09	(2.5)	44.22	(7.6)	34.95	(7.7)
K 区	10.16	(2.2)	44.60	(6.7)	34.67	(6.9)
L 区	9.83	(2.3)	43.88	(7.0)	34.25	(7.0)
M 区	9.81	(2.2)	44.84	(5.9)	35.51	(7.6)
N 区	9.94	(2.4)	44.60	(6.3)	34.15	(6.8)
O 区	10.20	(2.4)	44.78	(6.4)	34.12	(7.6)
P 区	9.92	(2.4)	44.48	(7.4)	35.10	(8.2)
Q 区	10.17	(2.5)	44.11	(6.9)	33.77	(7.0)
R 区	10.08	(2.6)	44.89	(6.7)	36.40	(7.7)
不明	11.75	(2.2)	47.14	(6.8)	33.14	(8.1)
合計	9.98	(2.3)	44.35	(6.7)	34.61	(7.3)

※各変数の無回答を除く

活動継続意欲：5 件法×3 問、得点範囲 3~15、得点が高いほど活動継続意欲が高い。

援助成果：5 件法×12 問、得点範囲 12~60、得点が高いほど援助成果が高い。

役割ストレス：5 件法×12 問、得点範囲 12~60、得点が高いほど役割ストレスが高い。

民生委員の役割は民生委員法および児童福祉法により規定されているため、民生委員対象の調査において民生委員自身の基本的な役割意識をあらためて問うことはない。全国民生委員児童委員連合会によるモニター調査^[2]でも、このような調査項目はない。民生委員は行政委嘱型とはいえボランティアであり、活動における主体性や役割意識は重要である。小地域ごとに配置され、一定の圏域で地区民児協が組織されていることから、当該地域における福祉活動の主たる担い手、事務局、舵取り役になることが少なくない。結果、個々の民生委員の役割意識は、その地域での住民による福祉活動の方向性に影響を与える可能性も高いと考えられる。本調査において、個別支援・地域福祉活動・民児協運営のいずれも「どちらともいえない」が13.6~18.3%であったことは、決して少ない比率とは言えないと考える。松崎^[3]は、民生委員が十分な知識のないままに委嘱を受け、その活動状況からも期待された役割を全員が同じように果たすことが難しい状況にあることを指摘している。もともと民生委員活動に対する意欲が低く役割意識が持っていないこと、ストレスを受けて役割意識が低下したこと等も考えられる。

4.3. 民生委員の活動継続意欲・援助成果・役割ストレス（区別）【表3】

民生委員の活動継続意欲は、全体平均9.98（標準偏差2.34）であった。区別にみると、最も高い区はF区10.34（標準偏差2.02）、次いでO区10.20（標準偏差2.39）、Q区10.17（標準偏差2.47）であった。最も低い区はA区9.68（標準偏差2.23）、次いでG区9.71（標準偏差2.62）、M区9.81（標準偏差2.20）であった。

民生委員の援助成果は、全体平均44.35（標準偏差6.72）であった。区別にみると、最も高い区はF区45.38（標準偏差5.81）、次いでR区44.89（標準偏差6.73）、M区44.84（標準偏差5.88）であった。最も低い区はA区42.58（標準偏差7.28）、次いでE区43.54（標準偏差6.93）、D区43.66（標準偏差6.87）であった。

民生委員の役割ストレスは、全体平均34.61（標準偏差7.31）であった。区別にみると、最も高い区はR区36.40（標準偏差7.68）、次いでM区35.51（標準偏差7.64）、G区35.40（標準偏差6.93）であった。最も低い区はA区33.46（標準偏差7.20）、

次いでQ区33.77（標準偏差7.05）、F区33.94（標準偏差7.22）であった。

以上3項目のうち2項目以上が上位もしくは低位得点3位以内であった区を抽出したところ、18区中6区に限定された。F区は援助成果が高く、役割ストレスが低く、継続意欲が高かった。Q区は役割ストレスが低く、継続意欲が高かった。M区は援助成果が高く、役割ストレスが低いものの、継続意欲が低かった。R区は援助成果が高く、役割ストレスも高かった。A区は援助成果が低く、役割ストレスも低く、継続意欲も低かった。G区は役割ストレスが高く、継続意欲が低かった。単純加算した得点平均による比較だが、これらには各区の地域特性や地区民児協の体制、行政等の事務局体制^[4]による影響が推察される。

4.4. 民生委員の活動継続意欲・援助成果・役割ストレス（変数ごと）【表4】

民生委員の活動継続意欲3項目、援助成果12項目、役割ストレス12項目それぞれの回答（全数の平均値および標準偏差）は【表4】のとおりである。いずれも5件法による回答に5~1点を配点した。「とてもあてはまる/とてもそう思う」=5、「あてはまる/そう思う」=4、「どちらともいえない」=3、「あてはまらない/そう思わない」=2、「まったくあてはまらない/まったくそう思わない」=1である。

活動継続意欲では、「民生委員活動を今後も続けたいと思う」が3.03でほぼ「どちらともいえない」であるのに比して、「全体として民生委員活動に満足している」「友人が民生委員の仕事をしたと言ったら勧める」は3.41~3.54とやや高かった。民生委員を積極的に続けたいというモチベーションにはない、もしくは高齢化で定年が迫っているものの、活動には多少なり満足しており、活動の有意義さや自分の後任問題も考慮して友人に勧められる、という民生委員の実情が伺える。

援助成果では、「外出する機会、講座などの学習機会、地域の行事や活動に参加する機会が増えた」が4.00で最も高く、「新しい出会いがあり、人間関係の輪が広がった」「人や地域に貢献しようという気持ちが芽生えた」「対象者や関係者から様々なことを教えられ勉強になっている」と続いた。援助成果12項目の平均値は3.50~4.00であった。

表 4. 民生委員の活動継続意欲・役割ストレス (変数ごと) (n=2,959)

	Mean	SD	とても あてはまる n (%)	あてはまる いえない n (%)	どちらとも いえない n (%)	あまり あてはまらない n (%)	まったく あてはまらない n (%)	無回答
活動継続意欲								
1) 民生委員活動を今後も続けたいと思う	3.03	1.13	309 (10.4)	649 (21.9)	1,066 (36.0)	550 (18.6)	309 (10.4)	76 (2.6)
2) 全体として民生委員活動に満足している	3.41	0.86	139 (4.7)	1,430 (48.3)	939 (31.7)	312 (10.5)	95 (3.2)	44 (1.5)
3) 友人が民生委員の仕事をしたと言ったら勧める	3.54	0.93	412 (13.9)	1,216 (41.1)	868 (29.3)	382 (12.9)	38 (1.3)	43 (1.5)
援助成果								
1) 人や地域に貢献しようという気持ちが生じた	3.95	0.68	488 (16.5)	1,881 (63.6)	460 (15.5)	76 (2.6)	12 (0.4)	42 (1.4)
2) 活動そのものが楽しめた	3.50	0.77	183 (6.2)	1,383 (46.7)	1,108 (37.4)	218 (7.4)	31 (1.0)	36 (1.2)
3) 「もっと〜したい」など自分自身を高める目標が生じた	3.30	0.84	146 (4.9)	1,095 (37.0)	1,244 (42.0)	358 (12.1)	71 (2.4)	45 (1.5)
4) 日常生活の中で人との対応が好ましい方向に変わった	3.72	0.75	330 (11.2)	1,627 (55.0)	805 (27.2)	146 (4.9)	18 (0.6)	33 (1.1)
5) 仲の良い友達ができ	3.58	0.89	335 (11.3)	1,441 (48.7)	807 (27.3)	272 (9.2)	69 (2.3)	35 (1.2)
6) 気持ちの充足感が生まれた	3.56	0.82	240 (8.1)	1,473 (49.8)	924 (31.2)	247 (8.3)	41 (1.4)	34 (1.1)
7) 自分にできていることで社会と関わり人の役に立つことができた	3.87	0.69	408 (13.8)	1,868 (63.1)	539 (18.2)	101 (3.4)	12 (0.4)	31 (1.0)
8) 新しい出会いがあり、人間関係の輪が広がった	3.98	0.74	607 (20.5)	1,808 (61.1)	386 (13.0)	107 (3.6)	18 (0.6)	33 (1.1)
9) 外出する機会、講座などの学習機会、地域の行事や活動に参加する機会が増えた	4.00	0.79	696 (23.5)	1,711 (57.8)	361 (12.2)	132 (4.5)	27 (0.9)	32 (1.1)
10) やりがい	3.50	0.80	201 (6.8)	1,372 (46.4)	1,088 (36.8)	209 (7.1)	54 (1.8)	35 (1.2)
11) 対象者の幸福・安寧のための新たな目標ができ	3.50	0.75	152 (5.1)	1,417 (47.9)	1,122 (37.9)	197 (6.7)	35 (1.2)	36 (1.2)
12) 対象者や関係者から様々なことを教えられ勉強になっている	3.89	0.74	460 (15.5)	1,858 (62.8)	462 (15.6)	123 (4.2)	24 (0.8)	32 (1.1)
役割ストレス								
役割曖昧								
1) 自分の責任の範囲が、はっきりしていない	3.24	1.03	248 (8.4)	1,134 (38.3)	728 (24.6)	705 (23.8)	111 (3.8)	33 (1.1)
2) 自分に何が期待されているのか、わからない	2.86	0.97	112 (3.8)	722 (24.4)	883 (29.8)	1,068 (36.1)	146 (4.9)	28 (0.9)
3) 要援護者に対して何をすればよいのか、わからない	2.76	0.96	103 (3.5)	633 (21.4)	786 (26.6)	1,247 (42.1)	148 (5.0)	42 (1.4)
4) どこまで支援すればよいのか、判断に迷うことがある	3.43	1.02	299 (10.1)	1,460 (49.3)	453 (15.3)	637 (21.5)	79 (2.7)	31 (1.0)
役割葛藤								
5) 民生委員の間で取り組み姿勢に違いがあって、やりにくい	2.75	1.02	172 (5.8)	510 (17.2)	868 (29.3)	1,152 (38.9)	221 (7.5)	36 (1.2)
6) ある人からは良いとされたことが、他の人からは良くないと言われることがある	2.76	1.03	99 (3.3)	687 (23.2)	829 (28.0)	1,017 (34.4)	290 (9.8)	37 (1.3)
7) 十分な情報や援助がないのに仕事を割り当てられることがある	2.77	1.07	170 (5.7)	628 (21.2)	745 (25.2)	1,114 (37.6)	262 (8.9)	40 (1.4)
8) 意味がないと思われる仕事を行政 (区役所) から割り当てられることがある	2.74	1.05	163 (5.5)	554 (18.7)	830 (28.1)	1,100 (37.2)	273 (9.2)	39 (1.3)
役割過重								
9) 相談件数や、見守りを必要とする世帯が多い	2.78	1.04	166 (5.6)	620 (21.0)	765 (25.9)	1,168 (39.5)	207 (7.0)	33 (1.1)
10) 行政や関係機関からの依頼事項が多い	2.78	0.97	120 (4.1)	587 (19.8)	921 (31.1)	1,121 (37.9)	179 (6.0)	31 (1.0)
11) 会議や研修が多い	2.85	0.97	141 (4.8)	625 (21.1)	958 (32.4)	1,061 (35.9)	144 (4.9)	30 (1.0)
12) 知識の習得や情報の整理が追いつかない	2.90	0.96	116 (3.9)	762 (25.8)	895 (30.2)	1,036 (35.0)	121 (4.1)	29 (1.0)

やりがいや目標ができたり、活動そのものを楽しむという項目よりも、自身の活動やネットワークが拡充されたり、他者や地域に貢献する気持ちが充足するという項目が上位となった。

役割ストレスでは、「どこまで支援すればいいのか、判断に迷うことがある」が 3.43 で最も高く、「自分の責任の範囲が、はっきりしていない」「知識や情報の整理が追いつかない」「自分に何が期待されているのか、わからない」と続いた。役割ストレス 12 項目の平均値は 2.75~3.43 であった。役割ストレスを構成する 3 因子（役割曖昧、役割葛藤、役割過重）では、「役割曖昧」が高く、民生委員活動において「はっきりしていない」「わからない」ことにストレスを感じている傾向にあった。

本指標を用いた杉原による研究^[1]と比較すると、変数ごとの高低の傾向は概ね共通していた。しかし、役割ストレスに関する 12 項目のうち 8 項目で本結果は杉原による研究結果^[1]より高い値を示した。民生委員活動については地域特性や委員自身の活動に対する態度はもちろん、それを支持する行政、社協等の専門機関の位置づけや関わりにも大きく左右される。杉原による研究は東京都区市部で 2~3 期目の民生委員を対象としており、それぞれの調査対象地域の特性が表出したことが推察される。

4.5. 民生委員活動における相談相手とのつながり【表 5, 6】

民生委員活動における相談相手の人数は、回答者個人（ケース）単位では 2,959 人、二者関係（ダイアド）単位では 10,481 のつながりが把握された。相談相手の人数は回答者 1 人あたり平均 3.54 人（標準偏差 2.05）であり、最小値「0 人」、最大値「8 人」であった。最頻値は「3 人」で 614 人（20.8%）、

表 5. 相談相手の人数 (n=2,959)

	n (%)
0 人	105 (3.5)
1 人	317 (10.7)
2 人	584 (19.7)
3 人	614 (20.8)
4 人	589 (19.9)
5 人	288 (9.7)
6 人	135 (4.6)
7 人	68 (2.3)
8 人	259 (8.8)
合計	2,959 (100.0)

次いで「4 人」が 589 人（19.9%）、「2 人」が 584 人（19.7%）、「1 人」が 317 人（10.7%）、「5 人」が 288 人（9.7%）であった。

相談相手の属性は、同僚である「民生委員」が最も多く 3,991 人（38.1%）、次いで「地域ケアプラザ（コーディネーター）」が 1,725 人（16.5%）、「地域包括支援センター」が 1,217 人（11.6%）、「区役所」が 983 人（9.4%）、「家族」が 914 人（8.7%）、

表 6. 相談相手とのつながり (n=10,481)
(二者関係単位)

	n (%)
相談相手の属性	
家族	914 (8.7)
友人	661 (6.3)
民生・児童委員	3,991 (38.1)
区役所	983 (9.4)
地域ケアプラザ（コーディネーター）	1,725 (16.5)
地域包括支援センター	1,217 (11.6)
区社会福祉協議会	640 (6.1)
ほか	350 (3.3)
相談相手と会う頻度	
週 4 回以上	356 (3.4)
週 2、3 回	423 (4.0)
週 1 回	810 (7.7)
月 2、3 回	2,358 (22.5)
月 1 回	2,995 (28.6)
年数回	3,202 (30.6)
無回答	337 (3.2)
相談相手との電話・メールの頻度	
週 4 回以上	308 (2.9)
週 2、3 回	637 (6.1)
週 1 回	810 (7.7)
月 2、3 回	2,159 (20.6)
月 1 回	1,964 (18.7)
年数回	3,802 (36.3)
無回答	801 (7.6)
相談相手への相談内容（複数回答）	
個人への支援	5,344 (39.1)
地域での活動	5,699 (41.7)
民児協の運営	2,217 (16.2)
個人的な悩み	49 (0.4)
ほか	353 (2.6)
相談相手に相談した時の相手の対応（複数回答）	
話を聞いてくれる	6,865 (36.7)
行動してくれる	3,548 (19.0)
必要な情報をくれる	6,107 (32.7)
活動を認めてくれる	2,182 (11.7)

表 7. 相談相手の属性と相談内容 (n=10,481) (二者関係単位) 複数回答可

	相談内容				合計 n (%)
	個人への支援	地域での活動	民児協の運営	ほか	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
家族	358 (31.0)	570 (49.3)	136 (11.8)	92 (9.9)	1,156 (100.0)
友人	212 (27.5)	414 (53.7)	70 (9.1)	75 (11.3)	771 (100.0)
民生委員	1,827 (31.0)	2,581 (43.8)	1,406 (23.8)	84 (2.2)	5,898 (100.0)
区役所	533 (44.6)	376 (31.5)	253 (21.2)	32 (3.4)	1,194 (100.0)
地域ケアプラザ	1,143 (55.7)	761 (37.1)	122 (5.9)	27 (1.6)	2,053 (100.0)
地域包括支援センター	925 (64.7)	406 (28.4)	79 (5.5)	20 (1.7)	1,430 (100.0)
区社会福祉協議会	221 (28.7)	391 (50.7)	130 (16.9)	29 (4.6)	771 (100.0)
合計	5,219	5,499	2,196	359	13,273

※相談相手の属性は「ほか」を除く

「区社会福祉協議会」が 640 人 (6.1%) であった。

相談相手と会う頻度は、回答者一人あたり平均 8.35 (標準偏差 11.57) であった。二者関係単位で見ると、「年数回」が最も多く 3,202 (30.6%)、次いで「月 1 回」が 2,995 (28.6%)、「月 2, 3 回」が 2,358 (22.5%) であった。

相談相手との電話・メールの頻度は、回答者一人あたり平均 8.35 (標準偏差 12.16) であった。二者関係単位で見ると、「年数回」が最も多く 3,802 (36.3%)、次いで「月 2, 3 回」が 2,159 (20.6%)、「月 1 回」が 1,964 (18.7%) であった。

相談相手に相談する内容は、「地域での活動」が最も多く 5,699 (41.7%)、次いで「個人への支援」が 5,344 (39.1%)、「民児協の運営」が 2,217 (16.2%) であった。

相談相手に相談した時の相手の対応は、「話を聞いてくれる」が最も多く 6,865 (36.7%)、次いで「必要な情報をくれる」が 6,107 (32.7%)、「行動してくれる」が 3,548 (19.0%)、「活動を認めてくれる」が 2,182 (11.7%) であった。

4.6. 民生委員活動における相談相手の属性と相談内容【表 7】

民生委員活動における相談相手の属性と相談内容から、相談先選択の傾向を確認した。家族や友人に対しては、個別支援よりも地域活動に関する相談が多く、同僚民生委員や専門職として「ほか」が多かった。「ほか」には自由記述で、「個人的な悩み」などが挙げられていた。同僚民生委員や区

社会福祉協議会に対しては、個別支援よりも地域活動に関する相談が多く、民児協運営についての相談も寄せていた。区役所に対しては、個別支援に関する相談が多く、次いで地域での活動、民児協運営の順であった。担当課により、個別支援であれば対象別福祉の所管課、民児協運営であれば民生委員の所管課に相談していることが伺える。地域ケアプラザや地域包括支援センターに対しては、個別支援に関する相談が多く、民児協運営に関する相談は少なかった。民生委員自身が相談内容に応じて相談先を選択している傾向が推察された。

4.7. 民生委員活動における相談相手の属性と相談内容【表 8】

民生委員活動における相談相手の属性と、相手から受けているサポート内容から、民生委員活動におけるソーシャルサポート受領の傾向を確認した。全体で見ると、相談相手の対応として「話を聞いてくれる」が 6,660 (36.8%) で最も多く、次いで「必要な情報をくれる」が 5,931 (32.8%)、「行動してくれる」が 3,420 (18.9%)、「活動を認めてくれる」が 2,077 (11.5%) であった。つまり、情緒的サポートが最も多く、次いで情理的サポート、手段的サポート、評価的サポートの順であった。

これを相談相手の属性別にみると、家族や友人の場合は情緒的サポートが他の相談相手と比べても多く、評価的サポート、情理的サポート、手段的サポートの順であった。民生委員活動における

表 8. 相談相手の属性とサポート内容 (n=10,481) (二者関係単位) 複数回答可

	サポートの種類				合計 n (%)
	話を聞いて くれる	行動して くれる	必要な情報を くれる	活動を認めて くれる	
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
家族	777 (59.6)	72 (5.5)	154 (11.8)	300 (23.0)	1,303 (100.0)
友人	516 (52.3)	106 (10.8)	186 (18.9)	178 (18.1)	986 (100.0)
民生委員	2,880 (37.9)	1,249 (16.4)	2,552 (33.6)	916 (12.1)	7,597 (100.0)
区役所	528 (32.7)	279 (17.3)	673 (41.6)	136 (8.4)	1,616 (100.0)
地域ケアプラザ	953 (29.5)	892 (27.6)	1,133 (35.1)	249 (7.7)	3,227 (100.0)
地域包括支援センター	677 (30.3)	622 (27.8)	766 (34.2)	172 (7.7)	2,237 (100.0)
区社会福祉協議会	329 (29.3)	200 (17.8)	467 (41.6)	126 (11.2)	1,122 (100.0)
合計	6,660 (36.8)	3,420 (18.9)	5,931 (32.8)	2,077 (11.5)	18,088 (100.0)

※相談相手の属性は「ほか」を除く

個別支援や地域福祉活動において助言を受ける、一緒に行動するといった立場ではないため、情緒的サポートの比率が高いと考えられる。

相談相手が専門機関の場合には、情動的サポートが最も多く、情動的サポート、手段的サポート、評価的サポートの順であった。地域ケアプラザおよび地域包括支援センターの場合には、手段的サポートの比率が区役所および区社会福祉協議会と比較して高かった。日常生活圏域に設置されている専門機関であり、個別支援における相談比率が高いことから【表 7】、戸別訪問への同行といった要援護者対応において具体的に「行動してくれる」場面が多いものと考えられる。

相談相手が同じ民生委員の場合には、情動的サポートが最も多く、情動的サポート、手段的サポート、評価的サポートの順であった。その他の相談相手の場合と比較すると、各サポートの比率の差がやや少ない結果であった。民生委員同士で活動の相談をしたり愚痴を言い合う（情動的サポート）、活動におけるアドバイスや情報提供を受ける（情動的サポート）ことが多いものと考えられる。一方で、個別支援については各民生委員で担当地区が定められているため「行動してくれる」ことは少なく、具体的な手段的サポートは地域福祉活動が中心になることが推察される。

なお、専門機関による評価的サポートが少ないことは、民生委員の活動環境を整備するうえで注目する必要があると考える。相談相手ごとのサポート内容の比率【表 8】ではなく、二者関係単位での相談相手の属性【表 6】を踏まえてみても、

家族 (n=914) で 300 に対し、区役所 (n=914) で 136、地域ケアプラザ (n=1,725) で 249、地域包括支援センター (n=1,217) で 172、区社会福祉協議会 (n=640) で 126 であった。家族からは約 32.8% が評価的サポートを受けているのに対して、区役所、地域ケアプラザ、地域包括支援センターからはいずれも 14% 台であり、区社会福祉協議会からは 19.7% であった。先行研究^[1]ではサポート内容まで検討されていないものの、専門機関によるサポートが援助成果の向上や役割曖昧の減少を介して間接的に継続意欲を高めることが示唆されている。また、成瀬ら^[5]は専門職種における役割満足や仕事に向ける意欲について、上司からの評価的サポートが影響することを明らかにしている。民生委員に対する専門機関からのサポートにおいても、その種別によって援助成果や役割ストレスへの関連が異なることが考えられる。

5. おわりに

民生委員を対象とした定量的な調査は、全国民生委員児童委員連合会のモニター調査や研究者およびシンクタンクによる調査のほか、自治体ごとの実態把握のための調査等があるが、民生委員の活動における意識とあわせて相談相手とのつながりを詳細に把握したものはない。本研究では、相談相手とのつながりに焦点化してネームジェネレーターによりその詳細を測定した。本稿では中間報告として記述統計に留まっているが、新たな基礎資料として意義があると考えられる。今後、本データの多変量解析および質的研究を進め、活動継続意

欲と相談相手のつながりとの関連等について詳細に検証していきたい。

謝辞

本研究における調査は横浜市民生委員児童委員協議会および社会福祉法人横浜市社会福祉協議会との共同調査として実施した。関係者および調査にご協力いただいた民生委員の皆さまに記して感謝を申し上げます。

注釈

[注 1]本研究の調査対象地域である横浜市では、横浜市地域ケアプラザ条例（平成3年公布）に基づき、地域における福祉・保健活動等の振興を図るとともに、福祉・保健サービス等を身近な場所で総合的に提供することを目的に、概ね日常生活圏域（中学校区）に1箇所の地域ケアプラザが設置されている。同施設では主に、地域住民の福祉・保健活動等の支援及び活動のための施設の提供、福祉・保健等に関する講習会や講座等の開催および相談・情報提供、介護保険法に規定する包括的支援事業（生活支援体制整備事業による第2層生活支援コーディネーターの配置を含む）、居宅介護支援、通所介護事業が運営されている。介護保険法に規定された事業による必要な職種以外に、福祉・保健活動等のコーディネーターのために「地域活動・交流コーディネーター」が配置されている。横浜市では、地域包括支援センターが145箇所設置されており、うち144箇所が地域ケアプラザ内に置かれている（令和5年3月1日時点）。残る1

箇所は、特別養護老人ホームに併設された地域包括支援センターである。本研究では、民生委員の相談相手として、地域包括支援センター3職種か、地域ケアプラザに配置されているコーディネーター職であるかを区別するため、相談相手の選択肢として「地域ケアプラザ（コーディネーター）」と「地域包括支援センター」を設けた。

引用文献

- [1]杉原陽子. 東京都の民生委員の活動継続意欲を促進・阻害する要因：援助成果，役割ストレス，サポートとの関連. 日本公衆衛生雑誌. 2018, 65(5), p.233-242.
- [2]全国民生委員児童委員連合会. 民生委員制度100周年記念全国モニター調査報告書. 2018.
- [3]松崎吉之助. 住民である民生委員が役割を見出すプロセス：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析. 技術マネジメント研究. 2014, 13, p.21-33.
- [4]小松理佐子・吉武由彩・原田正樹ほか. 民生委員活動を支える体制の現状：市町村民児協事務局対象アンケート調査結果. 日本の地域福祉. 2022, 35, p.107-117.
- [5]成瀬美佐・佐藤美樹. 職場サポートが感染対策リンクナースの役割受容, 仕事意欲に与える影響. 日本環境感染学会誌. 2022, 37 (3), p.78-89.

付記

本研究は大妻女子大学戦略的個人研究費（課題番号N2211）の助成を受けた研究の一部である。

（受付日：2023年6月1日，受理日：2023年7月19日）

飛田 和樹（ひだ かずき）

現職：大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科専任講師

専門は地域福祉。現在は、福祉活動に携わる地域住民の社会的ネットワークと意欲や負担感について研究を行っている。